

第 4 期 第 7 回 中 原 区 区 民 会 議

日時 平成26年 1 月 28 日（火） 14：00～

場所 中原区役所 5 階 502・503会議室

午後 2 時 開 会

1 開会

司会 皆様、こんにちは。定刻になりましたので、ただいまから第 4 期第 7 回中原区区民会議を開催いたします。

私は、本日の会議の議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきます副区長の小野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。また、皆様方には、先日、1 月 25 日の区民会議交流会に御参加いただきまして、まことにありがとうございました。

それでは続けさせていただきます。

本日は過半数の委員に御出席をいただいておりますので、川崎市区民会議条例第 6 条第 2 項の規定により、本会議が成立しておりますことを御報告申し上げます。なお、本日の会議は、会議公開条例に基づき公開で行われます。また、会議録を作成し、公開いたしますので、御了承いただきたいと存じます。

本日、石井委員、伊藤委員につきましては、所用により御欠席との御連絡をいただいております。また、稲富委員、塚本委員、中森委員につきましては、若干遅れるとの御連絡をいただいているところでございます。さらに、潮田参与、川島参与、原参与、吉岡参与につきましては所用により欠席との御連絡をいただいているところでございます。

それでは、中原区長の板橋より御挨拶を申し上げます。

区長 皆さん、こんにちは。区長の板橋でございます。私からも、先日の区民会議交流会に当たりまして、多くの委員の方が参加いただきまして、ありがとうございます。2 年続けての中原区の開催でしたので、地元ということで本当に多くの方に来ていただきました。スケジュール的に詰まっていまして、中身が消化不良だなという嫌いがないわけではないと思うんですけども、ほかの区の取り組みなどがある意味では丁寧に聞いたのかなと思っています。

まず冒頭謝らなければならないのは、新年早々、武蔵小杉駅でエスカレーターの事故がありまして、報道関係では 10 名という話になっているんですが、その後、また 2 名の方がいらっしゃいましたので、12 名の方にけがをさせていただきました。エスカレーターの管理そのものは川崎市の管理でございまして、けがをされた方につきましては大変御迷惑をかけ、それから、市民の皆様方にも不安と心配をかけてしまったことについておわびさせていただきますと思っています。

今、被害に遭われた方につきましては、区役所の道路公園センターを中心にお見舞いが上がったり、補償の問題について誠心誠意対応させていただいています。また、事故の原因につきましては、新聞報道でもございますように、チェーンが切れてしまって、重みで上りのエスカレーターが下がってしまったということでああいう事故になったんですが、なぜチェーンが切れてしまったのか、しかも、チェーンが切れれば安全装置が働いてとま

るはずだったんですけれども、その安全装置も働かなかったということで、今、国土交通省と警察で調査に入っていて、我々の手から離れてしまった中での調査という形になっています。そういうことも踏まえまして、報告方々おわびを申し上げたいと思っています。本当に申しわけございませんでした。

さて、本題に入りますが、今回、皆様方に中原区の魅力づくりということで、真摯な議論をこの間、運営部会、調査部会等をお願いしていました。先日、事務局から報告を伺った中で、ある意味では非常に大きなテーマなので、短期的に、あるいは中期的に、長期的にどう対応するかという難しさも含めながらの議論だったと思っています。そういう意味では、まさに変わりゆく中原区、特に小杉地区ということになってくると思うんですけれども、そういったものを踏まえながらの皆様方の議論だったと思っています。

きょうは、そういった報告をまた改めて聞かせていただきますし、そしてまた、皆様方の意見も伺えるということで、私としても非常に関心が高いところでございます。

私のほうから、その魅力づくりにつきまして、3つほどお話をさせていただきたいと思っています。

1つは、小杉駅中心の開発の問題でございますが、いよいよ今年度、J Rと東横線の間の東口駅前広場ということで正式に名称が決まったんですけれども、その広場が4月にオープンになります。3月29日にオープンのセレモニー等をやる予定でいるんですけれども、と同時に、大型商業施設が、4階、5階建てぐらいの三井系のものが駅前広場の隣にできます。その後、ことしの秋になりますが、イトーヨーカドー系の巨大な大規模商業施設がオープンになります。そういう意味では、今まで武蔵小杉というのはそんなに大型商業施設はなかったんですけれども、違った品ぞろえも含めながら、そういう大型商業施設ができる。このことがどういう影響を中原区にもたらすのか。1つは、近隣の商店街に対する影響がどうなのか、一番私にとっては関心の高いところでございますし、うわさによりますと、イトーヨーカドー系の大型商業施設は、東横線沿線でいきますと自由が丘から菊名あたりからも誘客する、それぐらいの迫力を考えているという話でありますので、そういう意味では、小杉のほうに訪れてくるお客様が相当増えるだろうと予想される場所なので、それが新しい中原、小杉の魅力としてどういうふうになっていくのかというのが1つ目でございます。

それからもう1つは、2020年のオリンピック、パラリンピックの開催が決まった後、実は先々週、川崎市のほうでもオリンピック対策本部みたいなものができたんですが、今年1年ぐらいかけて、東京で行われるオリンピックに対して川崎市はどういう対応ができるかということの議論が進みます。その中で、この中原区で議論されるだろうと思われるのが――今、都知事選で相当いろいろ議論があるみたいなんですけれども、今までどおりでいけば、大会そのものは東京都の有明を中心とした非常にコンパクトなところで行われるという話ですが、当然練習会場とかキャンプ地という話がありますので、我々として

は、東京だけではなくてこの川崎もキャンプ地に名乗りを上げたいし、等々力にあれだけの競技場施設を持っていますので、そこで各国の方々をお迎えしたいというような気持ちでいます。そうすると世界各国からいらっしゃいますので、いわゆる国際的なまちづくりをもっと進めていかなければならないだろうし、そしてもう1つは、パラリンピックもありますので、各国の障害者の方々も多くいらっしゃいますので、福祉のまちづくりをさらに進めていかなければならない。このような課題が、実はあと6年半後までにやらなければならないという新たな課題ができたということです。これも1つの魅力づくりの新たな課題になってくるのではないかと思います。

あともう1つは、これは非常に短期的な話なんですけれども、福田新市長になりました、ことし7月に川崎市制が90周年を迎えます。実は、阿部市長のときは、90周年は100周年の手前だからぐらいな感覚でいたんですけれども、新市長になられたので、せっかくの初めてのアニバーサリーみたいなどころがあるので、もう少し90周年記念をきちっと市民とともに作り上げていこうという新しい指示が出まして、予算の問題も当然あるんですけれども、この90周年に向けて何ができるかという議論もまた新たな魅力という形になってくると思います。

ちょっと長くなりましたけれども、中原、小杉の魅力づくりにつきましては、その3つの新しい課題ができましたので、きょうの議論も踏まえながら、引き続きその議論を区役所としてもきっちり受けとめていきながら、また皆さんとともに議論していきたいと考えているところでございます。そんなことも含めながら、きょうの議論を非常に楽しみに聞かせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

司会 それでは続きまして、事務局より本日の資料について確認をさせていただきます。

事務局 それでは、手元の資料の御説明をさせていただきますと思います。御確認をよろしくお願いいたします。

まず1枚目、本日の次第がございます。2枚目が、別添1、本日の席次表でございます。3枚目が、別添2、本会議の委員名簿でございます。

ここからが本日の資料となっております、1枚目、A3で1枚のものになっておりますが、資料1、課題調査部会の検討内容になっております。

続きまして、資料2、運営部会の検討内容になっておりまして、A3で3枚、ホッチキスどめで御用意しているものでございます。

続きまして、資料3、課題解決に向けた取組事項（案）といたしまして、A3の資料で3枚をホッチキスでとめております。

続きまして、資料4、中原区区民会議における検討課題の要望書でございます。こちらはA3で2枚の資料になっておりまして、ホッチキスでとめております。

続きまして、資料5、子育てふれあいカフェについてということで、A3の資料1枚の

ものでございます。

続きまして、資料 6、中原区地域福祉計画（案）区民説明会と健康落語についてのチラシでございます。こちらはカラーの両面の印刷になっております。

続きまして、ここからは参考資料でございます。参考資料 1－1、第 5 回課題調査部会会議録摘録でございます。A 4 両面印刷で、全部で 8 ページのものでございます。

続きまして、参考資料 1－2、第 6 回課題調査部会会議録摘録でございます。こちらも A 4 で両面印刷で 10 ページのものでございます。

続きまして、参考資料 2、第 6 回運営部会会議録摘録でございます。こちらも A 4 の両面印刷のものでございまして、全部で 7 ページでございます。

続きまして、参考資料 3、大師すごろく・みやまえカルタ・なかはらの魅力発信講座で、A 3 の資料で 3 枚ホッチキスでとまっております、2 枚目が両面印刷になっております。

最後が参考資料 4、第 4 期中原区区民会議スケジュール表でございます。

以上でございます。

司会 ただいま事務局から資料について確認させていただきましたが、資料の不足等はないでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ここからの進行は委員長にお任せしたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

川連委員長 皆さん、こんにち。ここからは私が議長を担当いたしますが、よろしくお願いいたします。皆さん、風邪のほうは大丈夫でしょうか。私もずっとこういう大事な会議があるので一生懸命気をつけてまいりました。今のところ無事に過ごしております。ただ、今はインフルエンザの話題もどこかへ行ってしまったみたいで、新聞もテレビもノロウイルスのほうがすごいですね。きょう、午前中にテレビを見ていましたら、カリブ海の豪華客船で食中毒が発生して大騒ぎになっているようです。私も今、相手が全く見えませんので、手洗いは一生懸命やっておりますので、皆さんもぜひ気をつけていただきたいと思います。

2 会議録確認委員の選任

川連委員長 それではまず、会議録の確認委員の選任をいたします。前回、中森委員と中山委員にお願いいたしましたので、名簿の順番で恐縮ですが、今回は成田委員と橋本貞子委員にお願いしたいと存じます。

3 議題

（１）第 5 回及び第 6 回課題調査部会報告

川連委員長 それでは、議題の審議を進めてまいります。

まず初めに、第5回及び第6回課題調査部会の報告を受け、審議テーマ「中原区の魅力の効果的な発信と魅力を活用した地域住民交流」に向けた取り組みについて議論いたします。

課題調査部会では、10月30日と11月25日の2回にわたり、課題解決に向けて熱心に議論していただきました。課題調査部会の審議結果について、課題調査部会の部会長であります板倉副委員長に御報告をお願いしたいと思います。それでは、よろしくお願いいたします。

板倉副委員長 それでは、課題調査部会の報告をさせていただきます。

今お話がありましたように、第5回、第6回ということで2回行っております。第5回の課題調査部会では、部会長、それから副部会長の選任を行いまして、私が部会長に、藤嶋委員が副部会長ということで選任されて、2回の会議を行っております。

検討テーマは「中原区の魅力の効果的な発信と魅力を活用した地域住民の交流」、サブタイトルは「今ある中原の魅力を伝えよう」ということでございます。伝えようというのは、次世代の子どもたち、新しく住民として来られた方々に何とか伝えていこうじゃないかということが考えの中に入っております。

この中で、中原区の魅力を生かした地域住民との交流ということを中心に検討いたします。さらに、住民交流のための情報発信をどうしていくかということについて検討いたします。

これから御説明いたしますが、資料1について説明をさせていただきたいと思います。ちょうど真ん中にある取組のアイデアというところが、皆さんからいろいろ御意見をいただいたところでございます。出された意見がここに要約されてありますが、中原区の魅力を次世代の子どもたち、もしくは新しい人たちに楽しみながら伝える工夫が必要ではないかということです。それから、中原区のものづくり、商店、企業を含めて知ってもらう機会が必要だという御意見もございました。区内を見て回る、区内を知るという意味でボランティアガイドの養成が必要ではないか。中原区には歴史にちなんだお菓子とかお醤油屋さんもございますが、いろんな商品が存在するので、このような商品も魅力資源としたらどうだろうか。中原区の歌、きょうも始まる前にかかっておりましたが、これができて10年にはなるんですが、なかなか知ってもらっていないんじゃないか。子どもの合唱団みたいなところで歌っていただいて、もうちょっとなじみ深いものにしてはどうだろうかというような話。それから、区の歴史にかかわるものを、「開運！なんでも鑑定団」のようなものを誘致して、マスコミに投げかけたらどうだろうかということもございました。そのほか、区の魅力ある活動をしている団体がたくさんございます。なかはらっぱ祭りというものもございますが、この中に登録されている団体が200団体ぐらいございます。実働しているのは90団体ぐらいという問題等はあるんですが、こういう人たちの活動を知る機会、活動してもらう現場をつくっていったらどうかということが出てございます。

第6回では、これまでの意見や第5回の調査部会で出されたアイデアをいかに絞り込むかということで検討を進めました結果、資料1の一番右側、取組（案）を取り上げてございます。それぞれの結果についてちょっと御説明させていただきます。

一番上にある魅力発見ワークショップの開催は、中原区の魅力について話し合うワークショップを開催してはどうだろうか。材料としては、散策マップとか区制40周年記念のときに発行した中原区の古い写真集、こういうものを紹介して、皆さん集まっていって意見を得てはどうか。また、子どもが参加できるようなワークショップも、これからの魅力としてやってはどうだろうかというお話がございました。

次のカルタ・紙芝居の作成ですが、中原区の魅力を伝える紙芝居とカルタを作成したらどうだろうかという御意見がございました。また、カルタをつくるんだったら、カルタをホームページからダウンロードして簡単にできるようなものをつくってはどうかというのもございました。それから、紙芝居ということですが、これは中原区におけるストーリー性が大切じゃないかと。この辺は意見ということで、どういうストーリーがあるのか。例えば二ヶ領用水をつくってきた歴史とか、そういうものを紙芝居にするのかなと思いましたが、とにかくストーリーをつくらざるを得ないのかなということです。

こうすることで、中原区における歴史とか文化におけるカルタとか紙芝居を作成したことのある団体、もしくは市内における大学等と連携した委員会を立ち上げてはどうだろうか。実際に書いてもらうのは大学生にお願いすることになるんですが、中原区は、残念ながら多摩区とか麻生区と違ってそばに大学を持っていないという弱点はあると思うんですが、その辺がございました。

次は、なかはらブランドの制定でございます。区内でつくられているものをなかはらブランドと位置づけて、区民に広くPRするというのはどうだろうかというのがございました。この辺は、どうしても利益に直結するとか、商売に直結するようなところもあるので、選ぶ基準をどう作っていくかというところに問題があるのかなという意見がございました。

次に、中原区のものづくりの体験・PRですが、学校関係にもものづくりに関する出前授業というのが区でそれなりに行われているわけです。その辺で、親子で楽しめるようなものを別途作っていったらどうだろうかという話がございました。これは、区民祭とか、なかはらっば祭り、コスギフェスタというイベントを活用して、新旧住民の交流を図ってはどうかという御意見がございました。

それから、魅力案内ガイド育成講座の開催でございますが、区の魅力を案内できるようなボランティアガイドを養成してはどうだろうかということがございましたが、せっかくその企画をつくるなら、いかに若い人に参加していただくか。この辺のところは問題ではないかということがございました。

それから、なかはらメディアネットワークの活用ということで、これはNMNという今

中原区で進めている1つの取組でございますが、ここで区の魅力の効果的な情報発信方法を知りたい。そのためにはメディアネットワークとどんな意見交換をしていくか、もしくは我々がどんな発信の仕方をすればNMNの方々が受け入れていただけるのか、この辺のところを十分に検討していく必要があるということでございます。

それから、なかはらネットワーク情報コーナーの活用という面でございますが、現在、情報発信の拠点としては、区役所、保健所等にそれぞれの場所を設定しております。この辺のところをさらにふやしていくことを考えていく必要があるだろうという御意見でございます。

最後ですが、メールマガジンの発行という話もございます。これは、区役所から発信されるメールマガジンに区の魅力に関する情報を載せてはどうかということでございます。ただ、メールマガジンというのは、登録した方々に送られるもので、いかに登録者をふやすかということがこれからの大きな問題になるんだろうということでございます。

以上が課題調査部会の検討内容でございます。余りにも幅広くて多岐にわたり過ぎて申し訳ないんですが、うまくまとまらなかったというのが実情でございます。この辺を運営部会にかけまして、それぞれ検討していただくということにしております。実現可能性とか実施できるかということについての判断を中心にいたしまして運営部会で検討していただくことにいたしました。

課題調査部会の報告は以上でございます。

川連委員長 ありがとうございます。ただいま課題調査部会の審議結果について御報告をいただきました。

（２）第６回運営部会報告

川連委員長 次に、12月25日に開催いたしました第６回運営部会の審議内容について、運営部会副会長である富岡副委員長に御報告をしていただきたいと思います。それでは、富岡副委員長、よろしくお願いいたします。

富岡副委員長 それでは、運営部会報告をさせていただきます。

12月25日に、委員7名全員の出席で運営部会を開催いたしました。まず、課題調査部会の審議結果を報告していただきまして、調査内容を確認いたしました。先ほど板倉副委員長からございましたように、課題調査部会では幅広い議論が行われましたので、本会議の審議に当たって、個別の取り組みをどのように提案するか運営部会で検討をいたしました。

それでは、資料2をごらんください。こちらは課題調査部会で検討していただいた取り組み案について、運営部会での検討により出た意見などをまとめた資料でございます。

それでは順に御説明いたします。

まず、魅力発見ワークショップの開催ですが、委員から、中原区の魅力を把握するのに

有効な取り組みである、新しい魅力が発見できる、住民同士の交流に有効であるなどの意見が出され、実施する方向で考えることとしました。

次に、カルタ・紙芝居の作成です。カルタ・紙芝居とも、魅力発見ワークショップで出された魅力が素材になるのではという意見が出されました。紙芝居は、防災紙芝居を作成した経験を生かして実施することができるという意見がございましたが、カルタは作成の手間や時間がかかるという課題が出されました。

次に、なかはらブランドの制定です。委員からは、公平性の面から、ブランドの選定方法や選定委員の選び方が難しい、特定企業などに利益を誘導しないようにする必要があるなどの意見が出され、実施方法の調査検討が必要であるという結論となりました。

次に、中原区のものづくりの体験・PRです。委員からは、既にチーム等々力などが活動し、取り組みを進めているので入れなくてもよいのではという意見がありましたが、運営部会としては、工業関係だけでなく企業などの商業関係の取り組みにも着目してPRできるような取り組みといたしました。

次に、魅力案内ガイド育成講座の開催です。委員からは、中原区には、歩こう会、散策ガイドの会、20年構想委員会など、既に活動している団体がたくさんあるという指摘がありましたので、ボランティアガイドの育成に向けて、こうした団体との連携を考え、あわせてニーズを把握するための取り組みといたしました。

次に、なかはらメディアネットワークとの意見交換です。メディア各社に何を聞きたいかを整理したほうがよいという意見があり、中原区で行われている魅力発信についての情報を効果的にメディアに取り上げてもらう方法について意見交換を実施することにいたしました。

次に、なかはらメディアネットワーク情報コーナーの活用です。委員からは、タウンニュースなどを見ている人が多いので、情報コーナーを積極的に設置するとよい、多くの人の目にとまるように置けるとよいという意見が出され、実施していくことにいたしました。

最後に、メールマガジンの発行です。委員からは、新聞をとらない世帯も多いので有効である。登録するメリットをうまく打ち出せるとよいなどの意見がありましたので、メールマガジンの登録者を増やすよう、周知を工夫して実施することにいたしました。

以上の検討を踏まえて取り組み案としてまとめましたので、資料3をご覧ください。

地域住民の交流の取り組みとしては、まず、魅力発見ワークショップを実施し、中原区のさまざまな魅力を話し合います。実施するに当たっては、子どもにも興味を持ってもらえるよう工夫するとともに、区制40周年記念写真集などさまざまな資料を使って行うものでございます。このワークショップで出された魅力をもとに、他の取り組みに反映させて実施していきたいと思います。

次に、紙芝居の作成ですが、中原区の歴史や魅力などをテーマに、ストーリーを工夫し

て子どもにも喜ばれる内容にすることとしております。取り組みの候補として上がっておりますカルタについては、紙芝居と両方を作成することは難しいので、比較的スムーズに実施できそうな紙芝居を選んでおります。

次に、なかはらブランド、中原ものづくり体験、魅力案内ガイド育成講座の3つの取り組みにつきましては、第4期期間中、それぞれの調査検討を行ってまいります。7月以降、取り組みの実施可能性の検討を継続して行っていただくスケジュールとしております。

続いて、情報発信の取り組みについては、なかはらメディアネットワークとの情報交換、なかはらメディアネットワーク情報コーナーの活用、メールマガジンの発行、以上を取り組みとして示しております。

なかはらメディアネットワークとの意見交換につきましては、効果的に魅力を発信するため、区の魅力に関する活動などの情報を効果的にメディアに伝えながら、なかはらメディアネットワークの情報発信を活用していくこととしております。

情報コーナーの活用は、現在設置してあります区役所、保健所、市民館、図書館、タワープレイスのほかに、人の目に触れる場所に効果的に設置していくものでございます。具体的には、東急武蔵小杉駅と元住吉駅への設置に向けて事務局で調整をしているところでございます。

メールマガジンの発行は、多くの人に登録してもらうよう工夫して、効果的な配信を目指して取り組むものでございます。魅力的な情報を配信していくために、配信内容の充実についても検討を行ってまいります。現在3月の配信開始に向けて調整を行っているところでございます。

説明は以上となります。ありがとうございました。

川連委員長 ありがとうございました。運営部会の御報告をしていただきました。

ここで事務局よりお話があります。

事務局 追加資料の御確認をいただきたいと思います。部数の関係で委員の皆様、参与の皆様への御提供資料とさせていただきますが、寺岡委員より御提供いただいた資料でございます。こちらの黄色い冊子でございますけれども、川崎ものづくりブランドについてのリーフレットでございます。おめくりいただきますと、川崎ものづくりブランドの認定式、フォーラムについての御案内が1枚挟まっているかと思います。こちらにつきましては3月18日の開催でございます。もう1冊が、少し小さいガイドブックですが、川崎名産品2012という資料でございます。

以上2点の資料を寺岡委員より御提供いただきましたので、御紹介させていただきます。ありがとうございました。

川連委員長 ありがとうございました。なお、資料4の桃の会の要望書につきましては、後ほど私から説明をさせていただきます。

（３）審議テーマ「中原区の魅力の効果的な発信と魅力を活用した地域住民交流について」（サブタイトル「今ある中原の魅力を伝えよう」）

川連委員長 今回のテーマは対象の範囲が大きいので、課題調査部会、運営部会の両部会で大変幅広い審議をしていただきました。審議の結果として今回の資料を作成しておりますが、委員の皆様から御意見をいただき、区民会議としての取り組み案をまとめていきたいと思います。

それでは、委員の皆様のお発言をお願いしたいと思います。どなたかいらっしゃれば。——では、私のほうで指名させていただきますので、よろしくお願いいたします。青木委員、よろしいでしょうか。

青木委員 私は、社会福祉協議会の立場でちょっと思いますのは、中原区の魅力というのは高齢者の福祉に生かしたいとか、活用できればと思っています。１つは、いわゆる団塊の世代の方というのは昭和22年から25年のこの４年間を言うんですけれども、以前、区役所で作っていただいた資料によると、中原区にはこの４年間の団塊の世代の方が1万850人いらっしゃいます。その人たちは、一昨年から65歳の高齢者の仲間に入ります。高齢化が急速に高まっていますし、さらに、2025年、昭和に換算すると100年なんですけれども、これらの人が全て75歳以上になります。超高齢化社会ということで、したがって、家に閉じこもっている、特に男性高齢者、会社の仕事が終わってほっとして家に閉じこもっていると認知症の危険性がありますし、弱くなってくると虐待を受ける恐れもありますので、今から元気な高齢者づくりをしなければいけないんじゃないかと。そのためには外出することを習慣づけるということで、例えば先ほどいろいろ話があった中原の魅力めぐり。マップをつくって、史跡とか、神社、お寺のコースとか、そんなことで１つは外出。それからもう１つは、老人いこいの家というのが中原区に7館あるんですけれども、ことしの4月から、この受け付けが今まで1人だったのが常時2名体制になります。そうしますと相談業務とか、さらによいサービスができると思うし、この機会を捉えていこいの家に足を運んでもらえるような講座とかイベントを考えてもらうように、私もことし1月にあちこちの社協の賀詞交換会に出させてもらって、そこで教養講座とかについても、マナーとか情性にならないように魅力を考えていただきたいとずっと言ってきたんです。要するに、男性高齢者の方々がいこいの家に足を運んでもらえば、そういった中原区の魅力を高齢者交流会という形につなげられればということで、今回のテーマの中で中原の魅力、いろいろワークショップをやっていただいて、これというものを出示してもらえればという思いでございます。

以上でございます。

川連委員長 ありがとうございます。稲富委員、忙しいところ、きょうはどうも御苦労さまです。

稲富委員 運営部会でお話をさせていただいていましたので、改めてというところは余りないんですけども、一番最後のメールの発信のところにつきましては、今の人というのは情報をメールで受けて、興味のあるものには特に関心を示して自ら行動するというパターンが多いので、今回3月を目標に進めていただいているということですから、ぜひこれを実現していただいて、情報発信につながるように持っていけたらなと思っております。

それ以上のところは、あえて補足はございませんので、よろしくお願いします。

川連委員長 ありがとうございます。それでは、梅原委員、お願いします。

梅原委員 1つ提案があるんですけども、2番目に区民と行政の協働による取組というのがあるんですが、この中に紙芝居とかそういうのをプロにつくってもらうとかいうことが書いてあるんですけども、ボーイスカウトでよくやるのは、例えばカルタをみんなでつくる、あるいは俳句をみんなでつくる、みんなで写真を撮るとか、それでコンテストをやるんです。みんなで投票するんです。そうしたら1番、2番とかいうのがわかるわけです。このカルタをつくるとか、あるいは紙芝居をつくるというのも、学校単位ぐらいにコンテストを開くという形をとると、子どもたちが全員参加してカルタをつくったり、紙芝居をつくったりすることになりますから、非常に関心が湧くんじゃないかと思うんです。ただ人がつくったものをぼやっと眺めるよりも、自分で参加してつくるというのが非常におもしろいと思いますので、これを提案したいと思います。

川連委員長 結構いい案だと思います。岡本委員、お願いします。

岡本委員 皆さん、たくさんのいろいろなところから網羅して、部会で検討なさってすごいなと思って拝見させていただいたんですけども、いろんなところに既成の各団体をお願いすると書いてあるんですけども、区民の人たちに、こういうのがあるから参加してくれないかという呼びかけももっとしたらいいんじゃないかと思っております。というのは、この間の交流会のときに、各区の御意見を聞いていると、区の人たちに、こういう企画をしているからという呼びかけをするということをたくさんのところから言っていっちゃったので、そうすれば団体に入っていない方でもすごく興味を持っている方がたくさんいらっしゃると思うんです。その方たちに少し呼びかけしていただけたらいいのかなと思いました。

川連委員長 どうもありがとうございます。尾木委員、お願いします。

尾木委員 手前ども観光協会の立場から、多摩川の丸子の渡しの復活を、復活協議会を立ち上げて、本格的に実現に向けて今走り出しているところでございます。今度2月1日に多摩川の安全を祈願する水神祭という、4回ぐらいやっていて、私どもは知らなかったんですけども、ぜひ地域の行事に加えてほしいということで、観光協会が全面的に応援しましょうということで、今度1日にやるんですけども、そういう行事、渡しの復活、それから、今までやってきているようですけども、中原街道時代まつり、こういうものを

コラボレーションで地域の文化というか、歴史としてきちんと立ち上げていきたい、それが地域の交流の場になればいいと。開発で新しくマンションにいられた住民たちも、中原区のそういう歴史に触れていただければ、また魅力を感じていただけるのかなということで、今私どもはそれを中心に観光協会として努力しているところです。ですから、そういう行事を通じて、またこういうこともやったらどうだろうとか、ああしたらもっと地域の住民が集まってもらえるのかという工夫もこれから考えていきたい。それが魅力ある地域の交流につながればいいかなと思ってやっているという、現状の報告ですけれども、よろしくお願いします。

川連委員長 ありがとうございます。丸子の渡しなんかは、紙芝居のほうでできないですかね。

尾木委員 そういう文芸的な才能がないものですから、今すぐは答えられませんけれども、そういうのもおもしろいかもしれませんね。

川連委員長 反町委員は後で御報告をいただかなくてはいけないので、飛ばしまして、お隣へ。

但野委員 こんにちは、よろしくお願いいたします。これだけの資料を送っていただいた分と、きょう御説明いただいた分を見まして、大変な手間暇をかけて考えてくださったこと、どうもありがとうございます。すごくいろいろな部分を網羅していらっしゃったんですが、カルタとか紙芝居のところ、二ヶ領用水の歴史という話が先ほど出ていましたけれども、学校のほうで二ヶ領用水の歴史の劇などをやっているのを見たことがあるんです。あと、去年から始まりましたなかはらミュージカルも、中原の歴史がよくわかるような、生活の様子がよくわかるような内容になっていて、とてもすばらしいと思っています。あと、図書館の郷土資料のところには中原区の昔話がたくさんあります。以前はタヌキやキツネがすんでいたときの話ですとか、神様が新城と隣町の間に倒れてしまって、どちらがどうするかというようなお話ですとか、楽しいお話がたくさんあります。ぜひそういったものも活用してつくっていただけたらと思っています。

また、そういったものをつくる場合に、中原図書館で行われているおはなし会というのは、意外と年齢層が小さくて幼稚園・保育園の子が主なんです。そういったことで、歴史がわかる小学生用と小さな子用があるといいなと思ったところと、あとは、ぜひ活用という部分で、図書ボランティアがほとんどの小学校で読み聞かせの活動をしているかと思うますので、つくられましたら、そういったボランティアにも御紹介いただきたいと思います。

それから、なかはらブランドもすごくいい案だと思ひまして、こういったことで各商店街の皆さんが、うちの商店街にもこういったものがあるというような、元気づけられるような活動になればいいなと感じました。以上です。

川連委員長 ありがとうございます。塚本委員、お願いします。

塚本委員 私は、以前から申し上げていることの繰り返しになってしまうかもしれないんですけども、私たちの地域に住んでいるマンションの人たちというのは、ほとんどこういう魅力を知らない。きょうもこういうのをお配りいただいて、とっても魅力があるものがたくさんあるんだなということを、私はわかるんですけども、ほとんどの人は知らないで、こういった区民会議でやることをあくまできっかけに、区民会議でやることも限界がありますので、こういうことはやりつつも、やった後にどうそれを、例えばうちで言う、うちの地域の住民にこういうことを引き続き情報提供していけるかどうかということが大事ななと思っています。

NPOのエリマネはエリマネで中原区の魅力を知ってもらって、灯台もと暗しで、電車であちこち行ってしまうんですけども、地元には足をとめて、いいものがあるんだ、いいところがあるんだということで地元経済を活性化させるということは、中長期課題としてうちの事業として取り組んでいかなければいけない使命だと思っているので、そういうものの1つの材料にしていきたいと思っていますし、来年度、こすぎの大学という中原の魅力を発信するための事業を1つ走らせようと思っているんですけども、そういうものにもこういうのを参考にさせていただきたいと思っています。どうしてもイベントでやるとそのイベントのときは力が入って動員をかけていっぱい住民をとなるんですが、それも大事なんですけれども、その後、地道にここで寄せられた知恵とか情報を流通させていく、そっちに頑張りたいと思っています。以上です。

川連委員長 どうもありがとうございました。寺岡委員、お願いします。

寺岡委員 私は各部会の内容は非常にいい内容でまとまっていると思いますので、これを今年度できれば、どれぐらい実行できるかわかりませんが、情報発信だとか、地域住民の交流という点ですけども、まず今年度は中原の小中学校を取り込んでこれを実施されたら、非常に効果的で早く実現して、地域住民の交流と情報発信に貢献できるんじゃないかと思っていますので、まず今年度は、小中学校を取り込んで調査部会から出ている検討内容を推進されたいんじゃないかと思っています。

川連委員長 中山委員、よろしくお願いします。

中山委員 それでは、2つほど。1つは、先ほど板倉副委員長が、多岐多様にわたって細かくなっているというお話をされましたけれども、委員長、副委員長、それから皆さんを含めるとこの中に18名いらっしゃるんです。そうすると、皆さんがそれぞれの分野にタッチしていれば十分できるかなという気がいたします。

2つ目、これは課題部会で出たものが次の運営部会で審議されるんです。それで、審議されて内容はこうなりましたよということですが、これを決めるということは、このままでは終わらないと思います。もう一歩進んで、じゃ、どうしようということになるんじゃないかという気もいたします。それまで時間がないので大変苦労だろうとは思いますが、ひとつ努力してください。以上です。

川連委員長 成田委員、お願いします。

成田委員 毎回毎回、私が発言すると子ども絡みになってしまうんですが、中原区の最近の人口比率を見たときに、30代、40代の年代層が一番多いということで、その年代層というと皆さん働き盛りで、自営の方を除いて普段は地元にはいらっしゃらない方がほとんどだと思います。かわりに、その世代のお子さんたちが、幼稚園から小学校、中学校ということで、郷土の歴史とか地元の工場とか、そういったところとの連携を学校関係でやってみて、中原区の魅力についてはむしろ親よりは子どものほうがよく知っているのではないかと思います。

交流会のときも二、三人の方とお話ししたんですが、ワークショップ等に、大人だけではなく子どもの目線から見た中原区の魅力を1つつけ加えていただけるといいかなということと、中原区の魅力は何かというときに、中原区の知識がないとわからないということで、例えば親子で中原の魅力についてといったちょっとした、コンクールではないですけども、夏休みの自由研究のプラスアルファみたいな、そんなイベントをやって、親子さんで、こんな魅力がありましたというものを出示していただいて審査していただくというアイデアもあるかと思います。子どもを巻き込んで、親の世代に中原区の魅力を知ってもらうという企画があるといいなと思いました。その中に、最初に掲げましたワークショップをどういう形で運営していくか、どういう世代にどんな形で参加してもらうかということ、もうちょっと掘り下げて考えていったらいいかなと思っております。

川連委員長 橋本（貞）委員、お願いします。

橋本（貞）委員 私も、今お隣の成田委員の発言に同感なんですけれども、先ほど梅原委員がおっしゃいましたボーイスカウト、そういうお子さんを巻き込んで、特に紙芝居とかそういうものをつくる時、考えられる実行主体という中に、いろいろな協議団体が入っていますけれども、年齢層がほとんど限られている方ですね。でも、カルタとか紙芝居はやはり主にお子さんが対象だと思うんです。そうすると、これから長い歴史を引き継いでいくには、小学生、そういう子どもたちから興味を持ってもらって、それが引き継がれていくほうが、長い中原区の歴史をわかっていただくには必要だと思います。私たちもちろん歴史を知ることが大切ですが、実行する場合に、例えば私は住吉小学校の地区なんですけれども、住吉小学校では年に1回、昔の遊びを知ろうということで、私たち10名ぐらいで、要するにおばあちゃん、おじいちゃん世代が行って、実際に小学校2年生3クラスなんですけれども、毎年、もう10年以上やっています。それを午前中、授業の中の1つとしてやっています。そして、その2年生が1年生に教えていく、その繰り返しなんです。ですから、そういうお子さんを対象にして紙芝居とかもつくる。コンクールとかそういうのは、私の孫を見ていなくても、和歌をつくったり、夏休みの課題が出て、コンクールとかで表彰されるとすごくやる気を起こすんです。ですから、そういう子どものやる気を起こすというところにもものついてつくっていったら、もっと皆さん子どもたちも大

人も楽しいのができるんじゃないかと思います。そういう意味で、実行主体をもっと幅広く考えていただきたいと思います。

川連委員長 私も賛成です。お隣の橋本（満）委員、よろしくお願いします。

橋本（満）委員 同じような意見になってきたんですが、カルタについては、区民会議としては時間的に難しいという点があると思うんですが、これについては周年行事として教育委員会の協力を得て学校などに呼びかけるとか、そういう方法でやることも1つの方法としていいのかなと。区民会議のほうで全然タッチしないということではないんだけど、区民会議も協力しながら、教育委員会などの協力を得ながら、学校などに呼びかけて出していただく。カルタとなると、相当多くの人の意見や何かが出ないとまとまらないと思いますので、そういったことなども検討できたらと思っております。

川連委員長 ありがとうございます。藤嶋委員、よろしくお願いします。

藤嶋委員 私は、課題とか運営、全部の会合に出させていただいておりますが、本当にいい意見がたくさん出ておりますが、何しろ実施していかないと、私たちのやってきたことが何にもならないということで、資料3のところに、きょうは、実行委員会発足とか出ておりますが、こういうところで区民会議の人たちが本当に楽しく意気揚々と、これからの人たち、今いる人たち、また新しく入った人たちに伝えていこうという意気込みがすごく大事じゃないかと思いました。

先ほど委員長が、反町委員から後でということなんですが、その紙芝居も反町委員の知り合いの人が、そういうのをお金をかけないでやってくださるという話も聞いておりますし、皆さんいろいろな能力があると思うので、ぜひこの機会にこれを生かして、皆さんで楽しくやりたいと思っております。以上です。

川連委員長 ありがとうございます。では、富岡副委員長、お願いします。

富岡副委員長 なかなかすばらしい意見がたくさん出まして、中原区の魅力発見ということで、ワークショップを開催いたしまして、各種の団体とか幅広い層の人たちにお集まりいただきまして、魅力を発信していただきまして、どういう魅力があるか、そこで魅力の抽出ができるのかなと思っております。そして、それをもとにしてカルタ、紙芝居を作成して、広報、情報交換の資料とするということでございまして、あとは、広報のメディアネットワークとの意見交換等、またネットワーク情報コーナーの活用ということで、広報発信をしていくということでございますが、まずはどういう魅力が中原区にあるかということの抽出をしていかないと資料としてまとまらないと思いますので、やはり私は、ワークショップでいろいろな魅力を発信していただいて、そこから始まるのがいいのかなと考えております。よろしくお願いします。

川連委員長 ありがとうございます。では、板倉副委員長、お願いします。

板倉副委員長 調査部会ということでやってまいりまして、いろんな意見が出過ぎて整理がつかなかったというような、まことに申しわけないと思っています。

今、皆さん廊下を歩いていただいたときに写真があったと思うんです。フォトコンテストということでやっておりますが、表題が中原の魅力。あくまでも、人間を撮る写真じゃありません、技術の写真じゃありませんということで、皆さんから応募いただいたものでございます。それから、もう1つこっち側にマナーアップポスターということで、小学校の作品が並んでおります。フォトコンテストというのは応募がどんどんふえているんだけど、ところが、夏休みの宿題ということもあるのかもしれないですが、マナーアップのポスターの応募がどんどん少なくなっているんです。それで、今回は休んでこのポスターを全部整理して、皆さんでポスターを使っていただく、どこかに張ってもらったりして使っていただくというところに方針を変えようかなと、たった1年間ですけれども、やってみようかなと思っているわけです。

先ほどもお話があったように、小学校とか中学校の皆さんにというんですが、マナーアップポスターをやっている、PTAの方々から、挨拶運動のポスターをつくりましょうとなると、マナーアップのポスターはすっとんと落ちるんです。それから、消防署からこういうの、警察からもこういうのとやると、警察と消防署に行ってしまうてなかなかうまく集まらない。そういうこともありますので、いろんな意見が出ているんですが、多少問題はあっても継続することが大切だと思っていまして、今いろんなことで継続していく必要があるんだろうと思っています。

うまくまとまらなかったのも、とにかく申しわけないと言う以外にないんです。これからここの中で選んでいただいて、まとめていってほしいと思っております。以上です。
川連委員長 どうもありがとうございました。それでは、時間の都合もございますので発言はここまでとさせていただきます。多くの御意見をいただきましたので、現在の案に反映できるものはできる限り取り入れていきたいと思えます。

今後の事務局との調整は私に一任をいただきたいと思いますので、大筋はこの取り組み案で皆さんの御了承をいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

川連委員長 それでは、そのようにさせていただきます。

4 その他

・桃の会要望について

川連委員長 次に、皆さんのお手元に資料4が行っております。二ヶ領用水・中原桃の会さんからの要望書が入っております。それにつきまして、私から説明をさせていただきます。

この資料は、二ヶ領用水・中原桃の会から、中原区区民会議宛に提出された要望書です。区民会議で検討してほしい課題として、区内の桃並木の保存に関すること、桃の木を中原区の木に推薦すること、以上の2点を要望する内容となっております。この要望に関

する取り扱いを確認させていただきたいと思います。

まず、1点目の桃並木の保存についてですが、要望書によりますと、桃並木の保存は市議会で趣旨採択されているとのこと。区民会議で審議する地域課題の考え方については、川崎市区民会議条例の解釈と運用によって規定されております。その中で、市議会への請願陳情と同一趣旨の事案を区民会議で審議することは、区民会議の目的に照らしてふさわしくないため、調査審議の対象とはしないと明記されております。したがって、1点目については審議の対象にできないものと思われます。なお、桃並木を中原の魅力として捉えることについては問題がありません。

2点目の区の木についてですが、こちらは審議の対象外とはなりませんが、現在中原区の魅力発信について、部会の審議が終了し、第4期区民会議の取りまとめの段階に至っておりますので、第4期で検討するには時間的に無理であると思われます。したがって、第5期の区民会議を立ち上げた後で、検討テーマを議論するときに課題の1つとして取り上げるかどうかを判断していただければよろしいかと思います。

以上のように取り扱いしたいと考えますが、委員の方、いかがでしょうか。

稲富委員 桃の会の件は、藤嶋委員ともローカルにお話をさせていただいたりしていたんですけれども、請願の趣旨は、会としてはわかるんですけれども、この区民会議で取り扱うことについては、先ほど委員長からあったとおりだと私も思っております。特にほかの区の木とか花を選ぶ際には、住民で選んだり、公募したり、投票したり、それも周年行事とかで取り扱っているところが多いと聞いておりますので、川崎もまた周年を迎えますから、ぜひそういった中でこういうものを公募したり、この中の1つとして、住民の意見の中で決めていくのが一番かなと思っております。やはり区の木となると、区民の木でなければいけないと思いますから、ここの区民会議で議論して決めるというよりは、そういった市民の意思を反映して登録していけるような形をぜひとっていただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

川連委員長 きょうも、板倉副委員長からも話が出ておりますけれども、今回、第4期の最後に来て、難しい問題がいっぱいありまして物すごくごちゃごちゃになっているわけです。今はこれをとにかく片づけなければいけないので、どうしても時間的に、また区民会議ということもできないので、私も桃の会の皆さんのためにも早く決めてあげたいと思ひますけれども、なかなかぱっというわけにはいかなくて、各区のやり方も全部私も調べさせていただきましたけれども、皆さん、準備委員会をつくったりして、公募して全部決めているわけです。ですから、第5期で皆さんに頑張つていただいて、そういうことを決めていただければいいなと思ひます。ありがとうございます。

尾木委員 区の木の新定に關して、区民會議で議論をしてほしいという話は私も承つておりますけれども、行政のほう、区長さんもお見えになっているんだけど、区の花とか木とかシンボルを決めるのは、どういうプロセスで決めているのか。その辺は行政のほう

から説明を受けないと、我々区民会議で一々手続とか詳細について議論するというような問題ではないと思うんです。ですから、行政のほうで、こういうプロセスで決めたいから、こういう期間でこういうふうに諮って、またアンケートをとるならとるとか、もうちょっと積極的なものがあるといいんじゃないですか。悪いことではないと思うんですけれども、区民会議でどうだこうだというのは、私も承って、我々がいいからシンボルを決めたというのはちょっと筋が違うのかなと。もっと行政がきちんと道筋をつけた上で区民の総意を取りまとめて決めるというのが一番いい方法だし、そうあるべきだと思うんです。その辺は行政の説明を聞きたいんですけれども、どうでしょうか。

企画課長 区民の木でございますけれども、中原区は7区の中で唯一区民の木が定まっていないという状況でございます。これについては当然中原区としても、各区と同じように、区民からの要望等があればこれに応えていきたいと思っております。また、区の選出議員からも、このような御指摘は以前いただいたところでございます。

実は来年度が90周年記念ということもございますので、こちらとしては、例えば5期の区民会議で、行政のほうでこれは公募して区民の木を定めたらどうだというようなお話をいただければ、それについてはこちらもちきちと行政として区民に対して公募をして定めていきたいと考えておりますので、今後は区民会議と事務局とまた調整をしながら進めていきたいと考えているところでございます。以上です。

尾木委員 ちょうど90周年という節目のときなので、ぜひ実現するように行政のほうもやっていただければ。我々区民会議は、中原区の魅力をどう引き出すかとか、そういうこともやっているわけですから、一丁目一番地の区の木がないというのは威勢が悪い話なので、ぜひその辺は実現するように努力していただきたいと思っております。

川連委員長 ありがとうございます。区民会議でぱっと決めるわけにもいきませんので、やるんだったら準備委員会でもつくって、そこで検討してもらうようになると思います。それが一番いい方法だと思います。各区でも、全部そういう方式で今まで決めてきていますので、実際に中原区だけが区の木は決まっていないので、ぜひ早く決めていただきたいですね。ありがとうございます。

藤嶋委員 委員長の言うことはよくわかりまして、本当にそのとおりだと思いますが、ワークショップで中原の木をとすることは早過ぎますでしょうか。それがずっと続いて、ワークショップ、今期が終わって来期にもそれを持っていくわけですね。その場合に、この3月に行われるのではまだ早いですか。

川連委員長 そういうことではないんです。

藤嶋委員 このときに、中原の魅力をみんなで話し合うというときに、中原の木という課題にはまだ入れないですか。

川連委員長 入っていなかったわけですから、今ここに、きょうも皆さんに討論していただいていますけれども、やることが決まっていることを今討議しているわけで、そこに突

然今まで全く議論のなかった話をしますと、それはちょっとまずいわけです。ですから、次の5期になったら皆さんからそういう話を皆さんから出していただいて、それで、さっきから言っていますけれども、準備委員会でもつくってやらないと、ただ20人の委員が勝手に区の木を決めるというわけにもいかないんです。決めるときは公募で決めたほうがいいと思います。

・子育て支援「子育てふれあいカフェ」について

川連委員長 それでは次に、今期2つ目のテーマ「子育て支援」の審議で取り組むことになりました子育てふれあいカフェについて、取り組み状況を御報告していただきたいと思います。

反町委員から、資料5の説明をお願いいたします。

反町委員 それでは、子育てふれあいカフェについてということで、資料5をごらんいただけたらと思います。

以前の会議でもお話が上がっておりました子育てふれあいカフェの実施についてということで、ワーキングメンバーを事務局で御調整いただきまして、板倉委員、岡本委員、私と、但野委員、中森委員、成田委員ということで、先日の1月14日に第1回目のワーキングを実施させていただきました。その報告も含めて御説明をさせていただきます。

趣旨・コンセプトの確認ということで、平成23年11月に子育てふれあいカフェというのを実施しておりまして、これが大変好評でございましたことから、前回のものをベースに、前回は1度決めたその日1回を成功させよう、とにかく1回やってみようということでやったんですが、今回は、前回うまくいったというところもあるのと、需要がある、うまく実施することができれば区民の皆さんに、対象とする子育て世代の親御さんに喜んでいただけることは間違いないだろうという考えから、継続的に繰り返し開催していくということを前提に考えた上での計画をさせていただいております。

具体的には、事前の準備や開催の陣容、毎回予算等も限られている中で、そんなにたくさんいろんな準備とか動員はできないであろうと考えて、できるだけコンパクトに、でも、内容としては区民の方に喜ばれて、そして子育て支援につながるものということです。ただイベントをやるということではなくて、中身をしっかりとすることで、これを考えて決めていく、コンセプトとしていくということです。

次に、日程と会場についてですが、平成26年3月18日の火曜日13時30分から16時。これは3カ月健診に合わせて実施をするということで、前回の実績と、3カ月健診の実際のタイムテーブルも考慮させていただいた上で、前回と同じ時間帯での開催となりますが、13時30分から16時という時間がいいのではということになりました。

それから、会場についてですが、中原区役所内ウッドデッキとさせていただいております。天候、気温によっては区役所5階会議室で行うということもございます。この点

も、ワーキングの中で議論させていただいたところですが、やはりまだちょっと寒いんじゃないとか、いろんな意見が出た中で、過去の実績で、1度同じ場所、ウッドデッキで実施させていただいているんですが、大変いい環境なんです。もともと区役所にあるウッドデッキも生かせるということ、それから、雰囲気がとてもよくて、3カ月健診が保健所の会場になるんですが、保健所に行かれる方、あるいは出てこられた方の動線上からすぐ目の前に見える場所が会場になるんです。ですから、やる以上はできるだけ多くの方に御参加いただきたいということで、この子育てふれあいカフェ、事前に広報もいたしますが、それを御存じない方でも、帰り際とかに何かやっているよって見ていただけるような位置関係にありますので、やはりウッドデッキでやりたいということ。そして、3月18日という時期が、きょうも大変陽気がいいというか、暖かくなってきているなど私自身実感できていますが、きょうのこのくらいの感じであれば屋外でのイベントもできるかなということで、これから3月18日まで暖かくなっていくことを考えれば、運が悪くなければ、すごく寒かったり、雨が降ったりしなければ基本屋外での計画でいいのかなということで、屋外とさせていただいております。ただし、天候、気温によっては屋内でということで、当日判断をさせていただきたいと思います。

対象は、先ほど申し上げましたとおり、3カ月健診に訪れた親子。また、必ずしもその方々だけではなくて、告知によって訪れた親子とさせていただいております。

3、タイムテーブルでございますが、チームというか、ブロックを、全体進行とステージ、情報発信、飲食ブースという3つに分けさせていただいております。準備は11時30分からスタッフが集合して会場設営を行う。椅子、テーブル、テント等を準備させていただきまして、ここのステージの部分は13時半スタートということで、プログラム①、子ども向けの内容ということです。まず音が出るような内容として、この時間帯は健診を受けられる方がどんどんお越しになる時間帯に近いということで、ここで音をやってにぎやかさせて、健診が終わったらちょっと寄ってみようか、のぞいてみようかと思っただけのような雰囲気を演出できたらと思っております。

今回の趣旨としては、交流とか情報配信というところを含んでおりますので、ステージのプログラムをびっしり入れてしまうとステージばかり見るようなことになりかねませんので、ステージの進行に余裕を持たせまして休憩を入れさせていただいております。プログラム②としてはお母さん向けの内容ということで、具体的な内容はその後御説明させていただきます。また休憩を挟んで、プログラム③として、もう1度子ども向けの内容ということです。そして16時に終了、片づけ開始ということで、16時45分ごろに片づけ終了、解散というスケジュールにさせていただいております。

次、4、ステージプログラムの説明ですが、プログラムの①と③の子ども向けとしては、資料の右側に、ステージ出演者ということで資料をつけさせていただいております。実は前回、第1回目のときにもお越しいただいたまつもとななみさんという方がいらっし

やるんですが、このときも大変御好評をいただきまして、資料の下に写真を3枚ほどつけさせていただいて、白黒で見にくいところもあって申しわけないんですが、大変にぎわっております。終始まつもとななみさんも子どもに囲まれながら、子どもさんたちにも参加いただきながら楽しんでいただけていたという実績と、このふれあいカフェ以降も、中原区の子育て関係の事業を含めていろんなところで講師をやっていただいて、私も実際に見ています。あと、そういう活動に非常に理解があって、費用的な部分も御協力いただけそうですので、というところで、まつもとななみさんを御推薦させていただいております。詳しいプロフィール等は資料をごらんいただけたらと思います。

もう1つ、プログラム②でございますが、お母さん向けの内容が何かできたらいいんじゃないかということで、ワーキングの中で出たお話としては、お母さん向けに何か食生活に関するお話ができたらいいんじゃないかと。それを、同じくワーキングメンバーであります岡本委員のお知り合いの方で、講師をお任せできる方がいらっしゃるということで、現在その候補を2名挙げていただいて、今、事務局を含めて調整中ということでございますので、お2人の中から決まり次第、改めて皆様に御報告をさせていただく形になると思いますが、お母さん向けのお話をしていただくというプログラムで考えております。

次に、飲食関係でございますが、カフェを設置してくつろげるような場をつくるということです。カフェを提供するんですけれども、コーヒーと麦茶ということで、メニューをふやせばふやすほど大変になってしまうので、時期とかを考慮した結果、今回はカフェとしてはコーヒーと麦茶のみの提供ということで、もう1つが、試食として、これも岡本委員のところで御協力いただくんですけれども、試食として焼きドーナツととん汁、これのレシピ的なものもあわせて配付していただいて、この日の子育てふれあいカフェをきっかけにおうちでもつくっていただけるような形で、うまくその先につなげていけるような見せ方ができたらいいのかなと考えております。

情報発信関係といたしましては、子育てサロン・グループの紹介、ミミケロはっぴいダンスDVDの放映、パンフレット等の配布ということです。ディスプレイを設置いたしまして、映像でどんどん情報を配信していく、掲示、パネル等を設置できるものがあれば設置して、配布を行っていくという形になります。こちらについては、今後も皆様から、こういったものもPRしたほうがいいんじゃないかという情報をぜひお寄せいただいて、できるだけボリュームのある濃い内容のものをつくっていかうと思っておりますので、どんどん御意見、情報をいただけたらと思います。

最後に、今後のスケジュールでございますが、2月下旬にチラシを1200部配布の開始、御協力をお願いいたします。3月1日日曜日の市政だよりで、中原区版に掲載される。3月5日水曜日に最終ワーキングを15時から中原区役所の4階403会議室で実施するという流れになっております。

長くなりましたが以上でございます。ありがとうございました。

川連委員長 ありがとうございます。皆さんも、3月18日はぜひ参加していただきたいと思います。それは改めて通知が出ますので、よろしくお願いいたします。

・中原区地域福祉計画について

川連委員長 次に、その他として、中原区地域福祉計画について、事務局から説明をお願いします。

事務局 資料6を御用意ください。左上に虹の絵のあるA4のチラシ1枚でございます。中原区では、平成26年度から28年度までの3年間を計画期間とします第4期中原区地域福祉計画を策定しているところでございます。計画策定に当たりましては、本日御出席いただいております区民会議委員からも何名か委員となっていていただいておりますけれども、学識経験者、福祉関係団体、公募委員等、計16名から成ります推進検討会議を3回開催いたしまして、素案を策定いたしました。本日御案内いたします区民説明会で素案を御説明した上で、この計画に対する御意見をお伺いし、3月末に計画を策定する予定でございます。

前置きが長くなりましたが、お手元のチラシにありますように、2月13日木曜日午後2時から、こちらの502会議室で開催いたします。川崎市の計画、区の計画をそれぞれ簡単に説明した後に、皆さんから書面にて御意見をいただきまして、夢見亭わっぱさんの「笑いと健康」をテーマとした健康落語をお楽しみいただいた後に、御意見への回答を行う予定でございます。

区民会議におきましても、地域福祉は切っても切れないテーマであると思われますので、委員の皆様もぜひ御参加いただき、貴重な御意見をいただければと思います。

説明は以上になります。

川連委員長 ありがとうございます。何か今の説明に御意見、質問がありましたら、どうぞ。——よろしいですか。

それでは次に、第4期区民会議のスケジュールについて、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 それでは、区民会議のスケジュールについて御説明させていただきますので、お手元の参考資料4をごらんいただきたいと思います。

本日、第7回区民会議を実施しておりまして、その後、第7回運営部会を2月18日に予定してございます。第8回区民会議でございますけれども、3月19日ないし3月20日を予定してございます。どちらかで実施する予定でございます。

また、前にも御報告をさせていただいたと思いますが、今期の区民会議の取り組みについての市民報告会を5月17日土曜日に予定してございます。市民館で行う予定でございます。

なお、第8回区民会議につきましては、改めて日程の確認を事務局からさせていただきます。

たいと思いますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

川連委員長 ありがとうございます。

以上で本日予定しておりました議事は全て終了いたしました。ほかに皆さんから何かございましたら、遠慮なくお願いします。

ないようですので、それでは、ここで区民会議の参与の皆様一言ずついただきたいと思います。

本日の議論を聞いていただいて、お気づきの点などがございましたら、よろしくお願いいたします。時間の都合もございますので、毎回言っていることで申しわけないんですけれども、なるべく早くお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

押本参与 いつもと逆ということで、私のほうから少し御挨拶させていただきたいと思います。

まず、先日の区民会議交流会に参加された皆様、本当にお疲れさまでございました。夜の時間にこういう場所に参加していただきまして、ありがとうございます。川連委員長の発表も聞かせていただきまして、ほかの区に比べて中原区はやっぱり進んでいるな、また、ああいうパンフレット等を見ても、中原区が先頭に立って区民会議は進んでいるなど改めて感じたところでございます。そして、きょうの課題の中でいえば、さまざまな議題をるるお話しいただいて、多岐にわたりこれからも進めていくんだなと感じたところでございます。

私も先日、実は川崎青年会議所というところでカルタづくりを実際に、先日いただいた資料をもとに、中原区の名所を回って写真を撮ってつくった経緯がございます。時間で言うと、2カ月間ぐらいで行ったんですけれども、ほかの区はほかの区の方が担当してつくったりしたんですけれども、そういった中で、中原区はこういうところがあるんだねという話が実際にできたわけでありまして、そして、それを子どもたちに体験してもらうことによって多世代の交流ができたということは、実際にやってみてすごく感じたところでございました。時間がないという中で、周年行事等でやってみたらどうだというお話でしたので、ぜひともこれは実現をしてもらいたいと思います。

もう1点、最後に、時間はないんですけれどもお話をさせていただきたいところがありまして、さっきの資料4の桃の木の話でございますけれども、資料にあるように、区民会議の条例の解釈と運用の考え方によると、次の期になろうがなるまいが、市議会で1度請願となったものに関して区民会議でやるというのは、市議会軽視にもつながることになりますのでなかなか難しいことなんだろうと思います。ですので、ぜひともこれは区長に申し上げたいんですけれども、市制90周年、また次は区制45周年ですけれども、そのところで、区民会議に頼るのではなくて、区が率先して木の制定にかかわっていただくことをお願い申し上げまして、一言御挨拶とさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

川連委員長 ありがとうございます。

大庭参与 皆さん、きょうはお疲れさまでございます。私は区民会議の交流会、前回の区民会議を欠席させていただきましたので、出席できず、皆さんの議論を聞くことができなかったのが本当に残念なんですけれども、一言で中原区の魅力を発信するというのは本当に難しく、ここにかかわった皆さんは大変苦勞されたテーマではないかなと、きょうお話を聞いて実感いたしました。それで、ワークショップとか、カルタづくり、紙芝居づくりということで、カルタづくりはかなり日程もかかるというようなことですが、中原区民の子どもたち、世代を超えて幅広く参加して中原区の魅力を発信させていくという、いかに大勢の人たちが参加していくのかというところでは、本当にこういった取り組みは大事だなと思っております。

そして、先ほど青木委員から高齢者の問題も出されたかと思うんですけれども、情報発信ということでいえば、私もアナログ世代で、今ようやくいろんなインターネットとか情報機器も使い出しているんですけれども、なかなかお年寄り、高齢者の皆さんというのは、そこまで追いついていけないというような方も大勢いらっしゃるかと思うんです。意外に広報、川崎市の広報とか、中原区版ですとか、本当に身近になれば身近になるほど多く読まれるということもあるので、そうした広報の中原区版というところでも、いかにきょう話されたカルタづくりへの参加とか、紙芝居とか、そういったところで本当に読んでこういうこともやっているんだ、自分も参加してみようということで、紙媒体の充実というところもぜひしっかり押さえながら、行政の皆さん、本当に大変かと思うんですけれども、そういったこともさらに一層深めていただけたらと、きょうお話を聞いて感じたところです。きょうは本当にありがとうございました。

川連委員長 ありがとうございます。

市古参与 きょうもじっくりと聞かせていただきまして、ありがとうございます。これだけたくさんの取り組みというのは、中山委員のほうから、みんなで分担してやれば計画は実現できるのではないかなというようにお話もありましたけれども、限られた期間の中でこれをやり遂げていくというのは、力の集中といいますか、その辺が要るのかなということも感じましたし、やはり子どもたちをどうやって取り込んで、この取り組みをしていくのかというのはとても大切な視点じゃないかと私も思いました。先日、子ども会議が開かれたのを新聞報道で知りましたが、この中でも、子どもたちの意見というのは本当に真っ直ぐで、私たちもはっと気づかされるようなことがたくさんありましたので、ぜひ子どもさんたちを巻き込んで、この取り組みが成功できればいいなと思っています。

もう1つ、私の住んでいる地域では、アミガサ事件がことし100周年なんですけれども、どうやって後世に伝えていくのかということで、記念碑を建てるだけではなくて、きちんと地域から歴史を知るという立場で学んでいこうということで、先日も平間小学校のPTAの会長さんが、こういうことをぜひ学校の授業としても、PTAとしても、きちんと

取り組んでもらって、そして子どもたちに伝えていきたいというようなお話がありました。そういった取り組み、この川崎、中原の中ではたくさんの歴史的なことがあって私たちが今生きているということですから、そういうこともきちんと検証し合いながら、次代につなげていくというような魅力発信づくりもとても大切なんじゃないかということを感じながら、きょうは皆様の御意見を聞いておりました。本当にありがとうございました。川連委員長 どうもありがとうございました。きょう、参与の方から御意見が出ましたけれども、区民会議のこれからの運営の参考にさせていただきたいと思います。

事務局から何かございますでしょうか。

事務局 先ほどお話しさせていただきましたが、次回、第8回区民会議でございますけれども、3月19日水曜日、あるいは3月20日木曜日、候補日が少なく大変申しわけございませんけれども、このいずれかの日で開催の調整をさせていただきたいと考えております。また改めまして日程調整の御連絡をさせていただこうかと思っております。もし本日御予定がおわかりになる方がいらっしゃったら、区民会議が終わりましたら事務局までお申し出をいただければと考えております。よろしくお願いいたします。以上でございます。

5 閉会

川連委員長 皆様に御協力をいただきまして円滑な議事を進めることができましたことに、副委員長ともども深く感謝申し上げます、これで第7回の中原区民会議を閉会いたします。ありがとうございました。

午後3時45分 閉 会